

個別施設計画

策定年月 H30.1

施設名	岡山支援学校		所在地	岡山市北区祇園866		
敷地面積	20,096.73 m ²		棟数	18 棟 (計画記載対象 8 棟)		
延床面積	9,379.38 m ²			※対象は200m ² 以上の建物(車庫、倉庫等は500m ² 以上) ※公舎・寮は全て対象		
設置目的	特別支援学校教育のため					
【想定される自然災害】						
予想震度 5弱 津波 ー 浸水 ー						
建築規制	市街化調整区域 建ぺい率60%、容積率200%					
エネルギー使用量 (2016年度)	電気	ガス	水道	燃料 (灯油)		
	328,014 kwh	2,455 m ³	7,646 m ³	44,300 ℓ		
管理上の 特記事項	敷地内未利用地 なし 敷地内貸付地 なし 岡山市避難所(土砂災害、津波)協定による避難所					

1 施設内建物の概況

名 称	B棟(102棟)55	C棟(103棟)57-1,2,3	C棟(107棟)57-5
築年(西暦)	1999年	1999年	2000年
構 造	鉄筋コンクリート造 2階	鉄筋コンクリート造 2階	鉄筋コンクリート造 2階
建築面積	1,295.11 m ²	497.48 m ²	517.96 m ²
延床面積	2,615.78 m ²	569.40 m ²	1007.05 m ²
主要な用途 (室名等)	教室 職員室	食堂 機械室	教室
主要な設備 (屋外を含む)	空調設備 消火設備	空調設備 消火設備	電力設備(受変電設備) 電力設備(非常用発電設備) 空調設備 給排水設備 消火設備
利用状況	高	高	高
耐震性 ※1	有	有	有
躯体(コンクリート)の健全性 ※耐震診断済のみ	圧縮強度 ※2	/	
	中性化 ※3	/	
長期使用の 適否	建物傾斜 ※4	適	適
	地盤沈下 ※5	適	適
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	該当なし	該当なし	該当なし

※1 耐震性有:耐震診断の結果Is値≧0.6(震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm2未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜が有る場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

名 称	A棟校舎東(112棟)60	A棟校舎西(113棟)59	渡廊下棟(114棟)
築年(西暦)	2001年	2001年	2001年
構 造	鉄筋コンクリート造 2階	鉄筋コンクリート造 2階	鉄骨造 1階
建築面積	1,151.42 m ²	721.59 m ²	331.31 m ²
延床面積	1,656.97 m ²	1,466.26 m ²	331.31 m ²
主要な用途 (室名等)	教室 管理室	教室	渡廊下
主要な設備 (屋外を含む)	空調設備 消火設備	消防設備(自動火災報知設備) 空調設備 消火設備	—
利用状況	高	高	高
耐震性 ※1	有	有	有
躯体(コンクリート)の健全性 ※耐震診断済のみ	圧縮強度 ※2		
	中性化 ※3		
長期使用の 適否	建物傾斜 ※4	適	適
	地盤沈下 ※5	適	適
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	該当なし	該当なし	該当なし

※1 耐震性有:耐震診断の結果Is値 ≥ 0.6 (震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm²未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜が有る場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

名称	体育館棟(75棟)44	寄宿舍棟(108棟)61	
築年(西暦)	1981年	2000年	年
構造	鉄骨造 1階	鉄筋コンクリート造 1階	造 階
建築面積	665.90 m ²	619.25 m ²	m ²
延床面積	690.21 m ²	619.25 m ²	m ²
主要な用途 (室名等)	体育館	寄宿舍	
主要な設備 (屋外を含む)	—	空調設備 給排水設備 消火設備	
利用状況	高	高	
耐震性 ※1	有	有	
躯体(コンクリート)の健全性 ※耐震診断済のみ	圧縮強度 ※2		
	中性化 ※3		
長期使用の適否	建物傾斜 ※4	適	適
	地盤沈下 ※5	適	適
劣化状況 (劣化が進んでいるもの)	該当なし	該当なし	

※1 耐震性有:耐震診断の結果Is値 ≥ 0.6 (震度6強~7程度で倒壊する危険性が低い)又はS56.6以降に建築の建物 (S56.6より前に建築の車庫・倉庫は耐震診断対象外)

※2 圧縮強度:13.5N/mm²未満は不適 ※3 中性化:築後65年時点でコンクリートの中性化が30mm以上の見込みは不適 ※4 傾斜が有る場合は不適 ※5 地盤沈下が有る場合は不適

2. 対応方針

(1) 施設全体の方針

老朽化の進んだ建物について修繕、改修を行い、使用を継続する。

(2) 建物ごとの方針

区分	対応方針
B棟(102棟)55	設備等の大規模改修を行う。
C棟(103棟)57-1,2,3	設備等の大規模改修を行う。
C棟(107棟)57-5	設備等の大規模改修を行う。
A棟校舎東(112棟)60	設備等の大規模改修を行う。
A棟校舎西(113棟)59	設備等の大規模改修を行う。
渡廊下棟(114棟)	予防保全を図る。
体育館棟(75棟)44	長寿命化改修を行う。
寄宿舍棟(108棟)61	設備等の大規模改修を行う。

3. 施設全体のスケジュール

(概要)

- 1 設備等更新
劣化状況を確認しながら順次更新を行う。
- 2 長寿命化改修
屋上防水等を行うほか、内部・外部の改修を行う。
(75棟)2022年度以降設計・施工

(単位:億円)

区分	対応方針	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
B棟(102棟)55	設備等の大規模改修	エアコン 1									
C棟(103棟)57-1,2,3	設備等の大規模改修	エアコン 102棟に含む									
C棟(107棟)57-5	設備等の大規模改修	エアコン 102棟に含む									
A棟校舎東(112棟)60	設備等の大規模改修	エアコン 102棟に含む									
A棟校舎西(113棟)59	設備等の大規模改修	エアコン 102棟に含む									
渡廊下棟(114棟)	予防保全	予防保全を図る。									
体育館棟(75棟)44	長寿命化改修						設計・施工 1				
寄宿舍棟(108棟)61	設備等の大規模改修	エアコン 102棟に含む 屋上防水									

4. 概算費用

・総額 3億円(長寿命化改修 1億円、設備等更新 2億円)